

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北アルプス地域における子どもの居場所づくり支援事業
事業主体 (連絡先)	北アルプス地域子ども応援プラットフォーム (090-4181-6369 代表運営委員 金枝 由香里)
事業区分	②保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,081,350 円 (うち支援金: 865,000 円)

事業内容

- 子どもの居場所づくりに向けた研修として、オンラインを併用した学習会を3回行った。
- ・コミュニティハウス「ひとのま」の宮田さんを迎えて、誰もが使える居場所の作り方や心構えを学ぶオンライントーク会
- ・信州大学荒井准教授を迎えて、地域と学校が共に子どもを育むために何ができるかを考える学習会
- ・地域内の活動団体の連携を深めるギャザリング
- 子どもの居場所を試験的に開設し、ニーズを調査した。
- ・小中学生対象の長期休みの居場所として自習室、プログラミング工作、カヌー体験を行った。新しく白馬の拠点でも5日間の自習室と2回の工作体験を試行した。
- ・大町市内の中学校と連携して放課後自習室を5日間行った。
- 上記を通じて支援ネットワーク構築と担い手育成に努めた。

事業効果

1. 学習会の開催3回(延べ参加人数91名)
 - ・オンラインの学習だったため、必要な人に学びを届けることができた。また多くの参加があったことでネットワーク強化につながった。
2. 試験的な子どもの居場所の開設16回
長期休みの居場所3カ所11日間、参加者延べ348名
放課後自習室2カ所5日間参加者延べ31名
 - ・子ども本人や親のニーズを拾い、協力者を募り継続の方法を探ることができた。

今後の取り組み

- *居場所づくりについてはコロナ禍で十分な担い手育成ができなかったが、今回事業主体となった団体および協力者は、継続して実施する方法をそれぞれに考え始めている。プラットフォームとしても、情報の提供や発信などで応援することで継続を促したい。
- *活動している団体や個人間の情報共有や学び合いの場づくりが本来のプラットフォームの果たすべき役割だと考える。特にオンラインを使っただけの学習会は、遠方からの講師も招聘しやすく参加者が参加しやすいことがわかり、今後の可能性を感じた。
- *試験的な居場所づくりは今年で終了するが、学習会は継続し、参加団体の活動を支援したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【夏休みの子どもの居場所づくり】

【目標・ねらい】

- ①子どものための支援ネットワークを広げ、貧困の連鎖を断ち切るための研修会を開催する。
- ②子ども達の生の声を集め、居場所の担い手・支援者を掘り起こすための試験的な子どもの居場所を開設する。

※自己評価【A】

【理由】

活動を展開する中で、様々な場面で当初見込み人数を大きく上回る方に協力いただいた。また居場所の試験的開設を通じて、子どもや親の生の声を多く集めることができ、計画以上の成果が得られた。